

令和6年度採用 山梨県公立学校教員選考検査

中学校（音楽）問題

「始め」という合図があるまで、このページ以外のところを見てはいけません。

注 意

- 1 この問題は7問4ページで、時間は60分です。
- 2 解答用紙は、別紙で配布します。「始め」の合図で始めてください。
- 3 解答は、それぞれの問題の指示に従って解答用紙に記入してください。
- 4 「やめ」の合図があったら、すぐやめて係の指示に従ってください。
- 5 解答用紙を持ち出してはいけません。

令和6年度採用 山梨県公立学校教員選考検査

中学校 音楽

1 次の(1)～(5)に答えよ。

- (1) 能における「ワキ」について、「シテ」ということばを用いて説明せよ。
- (2) 「同主調」について説明せよ。
- (3) 「*accelerando*」の用語の読み方と意味を記せ。
- (4) 「*Allegro con brio*」の用語の読み方と意味を記せ。
- (5) 都節音階について、ホ音（一点ホ音）を開始音として全音符で記せ。

2 次は、ある楽曲の一部分を示したものである。この楽譜をホルン（in F）で演奏できるように移調して記譜せよ。

※著作権法により掲載を省略します。

3 次の(1)～(3)に答えよ。

- (1) 箏の演奏に用いる爪には、丸爪と角爪の2種類がある。それぞれの爪を用いる流派の名称を記せ。
- (2) 打楽器について、次の①、②に答えよ。
 - ① スペイン語で「木の箱」を意味し、楽器の上にまたがって構え、打面やフチの部分を手で打って演奏する楽器の名称を記せ。
 - ② ボンゴを演奏する場合、演奏者から見て左側に構えるのは、楽器の小さいほうと大きいほうのどちらか、記せ。

(3) 次の①～③は、郷土の祭りや伝統芸能、民謡の説明文である。それぞれにあてはまる名称を記せ。

- ① 山梨県の上野原市秋山に伝わる風流踊で、太鼓や鉦を鳴らして病気退散などを祈る、踊り念仏の一種である。2022年にユネスコの無形文化遺産に登録された。
- ② 沖縄県で生まれた踊り歌で、魚を捕る青年たちとそれを売りに行く娘たちの、のどかな漁村の暮らしが描かれている。
- ③ 催太鼓、だんじり、どんどこ船など、さまざまな芸能を載せた船が行き交う祭りで、大阪府の大川（旧淀川）で繰り広げられる船渡御で知られている。

4 4分の4拍子、8小節として、2声のリズムアンサンブルを解答用紙に創作せよ。また、どのような思いや意図をもって創作したのか（工夫点）を簡潔に記せ。なお、演奏は手拍子で行うものとする。

5 次は、共通教材『荒城の月』の一部分を示したものである。Aの楽譜は原曲、Bの楽譜は補作編曲されたものである。次の(1)～(3)に答えよ。

A	<p style="text-align: center;">Andante <i>mf</i></p>
B	<p style="text-align: center;">Lento doloroso e cantabile ♩ = 63 <i>p</i></p>

- (1) この楽曲の原曲作曲者と補作編曲者をそれぞれ漢字で記せ。
- (2) Bの楽譜に示されている音楽記号「Lento doloroso e cantabile」の意味を記せ。
- (3) この楽曲を歌唱教材として第2学年で扱う場合、どのような題材名（学習目標）が考えられるか、記せ。

6

次の(1), (2)に答えよ。

- (1) 次は、中学校学習指導要領 第2章 第5節 音楽の「第2 各学年の目標及び内容〔第1学年〕 1 目標」の一部である。下の①～⑤にあてはまることばを記せ。

- (1) 曲想と音楽の構造などとの関わり及び音楽の(①)について理解するとともに、創意工夫を(②)音楽表現をするために必要な歌唱, 器楽, 創作の技能を身に付けるようにする。
- (2) 音楽表現を創意工夫することや, 音楽を自分なりに(③)しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。
- (3) 主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み, 音楽活動の楽しさを(④)することを通して, 音楽文化に親しむとともに, 音楽によって(⑤)を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

- (2) ふだん, 生演奏を聴く機会の少ない地域や人々のところに, 演奏家などが出向き, 芸術を味わう場を提供する活動の名称を記せ。

7

次の(1), (2)に答えよ。

- (1) 第1学年において, 器楽と創作を関連付けた授業を計画する。まず, 8小節の旋律創作を行い, 創作した旋律をリコーダーで演奏させたい。このとき, 次の①～③に答えよ。なお, リコーダーの種類はソプラノもしくはアルトのどちらかとする。
 - ① あなたがこの授業を計画する場合, 旋律創作において, どのような課題や条件を設定するか, 記せ。

- ② 生徒が、創作した旋律をリコーダーで演奏するとき、器楽表現を創意工夫することができるようにするには、どのような指導の工夫が考えられるか、記せ。
- ③ この授業で、器楽の技能の評価を行うときの留意点を記せ。

(2) 第3学年において、鑑賞教材のオペラ『アイーダ』を用いて、3時間の授業を計画する。

次の①, ②に答えよ。

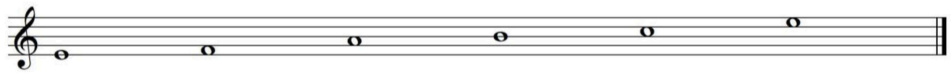

- ① オペラ『アイーダ』の作曲者を記せ。
- ② この教材において、生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素を「音色, テクスチャ」として下のような授業計画を立てた。下の(ア), (イ)に答えよ。

時	○学習内容 ・ 学習活動
1	○オペラに関心をもつ。 ・オペラ『アイーダ』の第2幕第2場の冒頭部分を聴き、気付いたことや感じ取ったことを共有する。 ○オペラ『アイーダ』について知る。 ・登場人物やあらすじを教科書で理解する。 ○総合芸術について知り、音楽と演劇、舞踊、美術などとの関わりについて理解する。 ・第2幕第2場を映像で鑑賞し、グループで気付いたことや感じ取ったことを共有する。 ・音楽と演劇、舞踊、美術などとの関わりについて自分の言葉でまとめる。
2	○曲想と音色, テクスチャとの関わりについて理解する。 <div style="border: 1px solid black; width: 60%; margin: 10px auto; text-align: center;">A</div>
3	○音楽表現の共通性や固有性について考える。 ○比較して鑑賞したことをもとに、オペラ『アイーダ』の音楽のよさや美しさを味わって聴く。

(ア) 2時間目の A に、考えられる具体的な学習活動を記せ。

(イ) 3時間目に、音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができるように、「歌舞伎・能・文楽・バレエ・ミュージカル」のうち一つの教材と比較して鑑賞することとした。あなたが授業を行う場合、どの教材と比較させ、どのような学習活動を行うか。選択する教材とその理由、具体的な学習活動を記せ。

中学校音楽 解答例

1	(1)	主人公（シテ）の相手役。		3点			
	(2)	同じ音を主音とする長調と短調の関係。		3点			
	(3)	読み方：アツチェランド	意味：だんだん速く	完全解答 3点			
	(4)	読み方：アレグロ コン ブリオ	意味：速く，生き生きと	完全解答 3点			
	(5)			完全解答 3点			
2	※著作権法により掲載を省略します。			4点			
3	(1)	丸爪	山田 流	角爪	生田 流	各3点	
	(2)	①	カホン	②	小さいほう	各3点	
	(3)	①	無生野の大念仏	②	谷茶前	③	天神祭
4					4点		
	<p>思いや意図（工夫点）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・だんだん盛り上がるように，リズムやパートの重なり方を工夫した。手拍子で演奏しやすいよう，使用する音符は4分音符と8分音符とし，最後は2つのパートを同じリズムにして終わる感じを表した。 				2点		

5	(1)	原曲作曲者名 滝廉太郎	補作編曲者名 山田耕筰	各3点				
	(2)	緩やかに、悲しげに、そして歌うように			3点			
	(3)	<ul style="list-style-type: none"> ・曲の形式を生かして歌唱表現を工夫しよう。 ・歌詞と旋律が生み出す雰囲気を味わいながら歌おう。 ・原曲と比較しながら表現を工夫して歌おう。 など 			3点			
6	(1)	①	多様性	②	生かした	③	評価	各3点
		④	体験	⑤	生活			
	(2)	アウトリーチ						3点
7	(1)	①	どのような旋律をつくりたいのか、表したいイメージを具体的にもち、反復もしくは対象を用いて、演奏に無理のない音域で創作すること。					3点
		②	創作した旋律をどのように演奏するかという思いや意図をもたせるため、音の長さや発音の仕方、奏法の工夫など、様々な器楽表現を試しながら工夫させる。					3点
		③	器楽分野においては、創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な技能、身体の使い方などの技能を身に付けて演奏することをねらいとしているため、生徒が、自分で創作した旋律を表現するための技能を身に付けているかについて評価し、演奏の技能のみを評価することのないよう留意する。					3点
	(2)	①	ヴェルディ					3点
		(ア)	<ul style="list-style-type: none"> ・アイダとラダメスのアリアを聴き、曲想と声部ごとの声の音色、歌い方等の特徴を聴き取る。 ・第2幕第2場のオーケストラと合唱の部分を聴き、声と楽器の音の重なり方の特徴を聴き取る。 ・聴き取ったことと感じ取ったこととをグループで共有する。 					4点
		②	選択した教材 歌舞伎 選択した理由 ・歌舞伎の長唄とオペラの合唱を比較させることで、音楽の特徴や声の音色の違い、声と楽器の音の重なり方の違い等が明確になり、音楽の共通性や固有性について考えることができるから。					4点
			(イ)	具体的な学習活動 ・第2学年で鑑賞した歌舞伎『勅進帳』の長唄部分と、オペラ『アイダ』の凱旋の合唱を比較聴取する。 ・それぞれの音楽の共通点や、声の音色、声と楽器の音の重なり方の特徴の違いについて気付いたことや感じ取ったことを共有する。 ・あらためてオペラを鑑賞し、オペラのよさや美しさについて自分の言葉でまとめる。				